

地域交流・福祉グループ

地域交流・福祉グループの提案を始めます。

私たちのグループは、中山間地域の地域交流や高齢者介護について話し合いました。

このことについて、2つの提案をしたいと思います。

提案1 「中山間地域の地域交流」について

一つ目の提案は中山間地域の地域交流をさらに活性化することです。

私が住んでいる広島市吉島地区には「孫子老（まごころ）」という取組があります。地域のお祭りである孫子老まつりや、とんど祭り、イベント以外にも町内でちょっとした遊びができたり、お互い地域で支えあう仕組みづくりが進められています。

しかし、中山間地域では、人口減少や高齢化が進んで、令和元年には中山間地域の3,372集落のうち、65歳以上が50%以上の集落は41.5%、10世帯未満の小規模集落は11.2%にのぼっていて、地域の伝統行事を続けることが難しくなったり、地域で助け合う活動をする人が少なくなっていることを知りました。地域だけで支えるには限界があります。地域の外の人ともつながりながら、地域を元気にしていくことが必要だと思いました。

調べてみると、広島県では「ひろしま里山・チーム500（ゴーマルマル）」という取組があつて、中山間地域で地域住民や企業などが協力し、地域の魅力を生かした交流活動や地域づくりが進められています。

そこで提案です。「ひろしま里山・チーム500（ゴーマルマル）」の取組をさらに充実させ、都市部に住む人が中山間地域を訪れ、地域の行事などを通じて地域の人ともっと交流できる機会を増やしてみてもどうでしょうか。

地域の外から訪れた人が中山間地域の魅力を知り、新しいアイデアや人の力が加わることで、中山間地域はさらに元気になると思います。また、都市部と中山間地域のつながりが深まり、都市部の人が何度も中山間地域を訪れるようになると、地域が盛り上がっていくと思います。

私も地域交流に積極的に参加し、実際に体験して、その魅力を家族や友達に伝えていきたいと思っています。

答弁（地域政策局長）

中山間地域は、豊かな自然環境の中で、農林水産業等の営みを通じて、美しい景観の維持や災害の未然防止、安全・安心な農林水産物の供給、水源の保全など、私たちの暮らしを支える多面的な機能や役割を担っています。

また、地域固有のお祭りや神楽等の伝統芸能、豊かな風土が育んだ食文化など誇るべき宝を有しており、これらの多面的な機能や誇るべき宝は、地域に暮らす皆様の長年の努力によって守り継がれてきました。

しかしながら、人口減少の進展などにより、地域の担い手の不足や、空き家や耕作放棄地の増加、生活交通や買物など日常生活に不可欠なサービスの維持困難といった、地域の安全・安心な暮らしに影響を及ぼす様々な課題が顕在化しています。

こうした状況にある中で、地域に暮らす人だけで地域を支えることは益々困難となるため、議員から御提案がありましたようにチーム500（ごーまるまる）の登録者だけでなく、中山間地域と関わりたい都市部等の住民など、多様な人々が中山間地域とつながり、地域の課題解決を図りながら、地域を元気にしていく動きを創ってまいりたいと考えています。

このため、広島県においては、豊かな自然と人の暮らしが調和する「さと」で暮らす人々と、都市部等の「まち」に暮らす人々がつながり、支え合いや協働によって、中山間地域に新たな活力をプラスしたいという思いを込めて、先月より都市部と中山間地域をつなぐマッチングサイト「さとまち+（プラス）」の取組を始めたところです。

このサイトを通じて、これまで、府中市におけるアスパラガスや、世羅町における梨の収穫体験、安芸高田市での、まちづくりの拠点となっている廃校をきれいにする活動によって、多くの交流や、地域の盛り上がりが生まれたところです。

今後も、来月6日には、神石高原町において竹林の手入れ、27日には、江田島市での海岸の美化活動、10月には、北広島町での草刈り体験といったプログラムの実施が予定されています。

議員の皆さんにおかれましては、是非、御家族の方々などとサイトを御覧いただき、プログラムに御参加いただくことで、新たな発見や学びを通じて、中山間地域のファンとなっていいただければ幸いです。

提案2 「高齢者の介護等」について

二つ目の提案は、高齢者の介護のうち、「高齢者の介護ロボット等の普及支援の充実」についてです。

高齢者人口がピークを迎える2040年に、広島県では1万人も介護人材が足りないことを知って驚きました。

介護は、人を抱きかかえたり、夜間も見守ったりするなど、体力的にも精神的にも大変な仕事です。もっと、ロボットやA I等の技術の活用が必要だと思います。

そこで提案です。介護施設への介護用ロボット等の普及支援を充実してはどうでしょうか。

調べてみたら、広島県の介護ロボット導入率は全国平均の31.2%を下回る29.3%でした。また、広島県の介護ロボット導入費用への支援制度は、最初の1年間だけのようです。もっと多くの介護施設にロボットを導入してもらったり、介護ロボットを使い続けられ易くなるような支援があれば、介護職員の負担が減り、人手不足の解消につながると思います。

次に、「介護について学ぶ機会の増加」についてです。

私が介護に興味を持ったのは、小学校の時に高齢者との接し方を学んだり、認知症予防のゲームを高齢者や老人ホームの方としたりしたことがきっかけです。最初は緊張していましたが、一緒に過ごすうちに、自然に会話できるようになりました。

しかし、介護職というのは専門職なので難しそうで、仕事が大変そうというイメージがあって、介護の仕事にどんなやりがいがあるのかよくわかりません。

そこで提案です。県が、市町や学校と協力して、地域の介護施設などで、高齢者と一緒に交流する活動や、介護の仕事を体験しながら学べる機会を増やしてはどうでしょうか。

また、介護の仕事をしている方から話を聞いたりすることで、仕事のやりがいや大切さへの理解が深まり、介護への理解や関心を持つ人も増え、将来の介護人材が増えることにもつながると思います。

私たちも、高齢者との交流に積極的に参加し、介護についてもっと学びたいと思います。

次に、「ロボットやA I等に触れる機会の充実」についてです。

私たちが介護ロボットについて調べたとき、介護ロボットだけでなくA Iを活用した見守りシステムなども活用されていることを知りました。このような技術は介護す

る人の負担を減らし、高齢者が安心して暮らすためにも役立っています。

このような技術をもっと発展させていくためには、それを使うだけでなく、新しい発想や技術を生み出す人材を育てることも重要だと思います。

私たちは新しいものに興味を持ちやすいので、小さいころからロボットやＡＩに触れることで、将来大人になったときに、子供のころの柔軟な発想やアイデアが生まれやすいと思います。しかし、私たちがロボットやＡＩに実際に触れたり学んだりする機会は多くありません。

そこで、提案です。もっと多くの子供たちが、例えば企業や大学と連携し、ロボットの体験イベントやものづくり教室、ロボットコンテストなどを通じて、楽しみながら体験や学ぶ機会を増やしてはどうでしょうか。

子供のころからロボットやＡＩに親しむことで、将来、県内でロボットやＡＩに関わる仕事に就きたいと思う人が増えていけば、県内にロボットやＡＩ業界に知識や技術が集積したり、関連企業や工場が集まり、よい循環が広がっていくと思います。

私たちは、将来、広島県のものづくりや新しい技術を支える人材になりたいと思います。

答弁（健康福祉局長）

3つの御提案がありました。

まず、1つ目の御提案である介護施設への介護用ロボット等の普及支援の充実についてお答えします。

高齢化と働き手の減少が進む中であっても、介護が必要な高齢者に質の高い介護サービスを提供していくためには、介護ロボットやＩＣＴ、ＡＩなどの「介護テクノロジー」を積極的に活用して、業務の効率化や職員の負担軽減に取り組むことが重要であります。

そこで広島県では、県内事業所の介護テクノロジー導入を促進するため、平成28年度から、介護ロボット等の導入経費に対する補助事業を実施していますが、導入事業所の割合は全国平均よりも低いため、さらなる支援の強化が必要であると考えています。

このため、事業者が実際に最新の機器やソフトウェアに触れて体験できる展示・研修会や、様々なテクノロジーを導入して先進的に業務改善に取り組む施設への見学会などを開催し、導入を検討している事業所に対する支援を行っているところであり、こうした支援を充実させることで、県内事業所への介護テクノロジーの普及と定着を一層加速させていきます。

次に、2つ目の御提案である県が、市町や学校と協力して、高齢者との交流や介護の仕事を経験する機会を増やすことについてお答えします。

県内には、介護施設等を訪問し、高齢者からお話を聞いて、困っている内容を知り、解決策を考え、自分たちにできる活動を行っている小学校や、高齢者疑似体験セットを用いて、高齢者の気持ちや、介助する側の配慮について考える体験的な活動を行っている中学校などがあります。

こうした小・中学校の取組を支援するため、広島県介護福祉士会の協力により、現場経験の豊富な介護福祉士を講師として小・中学校等に派遣する「出前講座」を実施し、高齢者を安全に車椅子に移す介助方法の体験や、実際に現場で介助を受けた利用者の感謝の声を紹介する取組などを行っています。

また、市町や地域の関係団体等と協力し、最新の介護ロボットや福祉用具の体験、介護食の試食などを通じて、介護の仕事を体感できるイベントや、介護の仕事に興味・関心のある若者等を対象とした「介護体験ツアー」なども実施しています。

今後とも、児童・生徒の皆さんに介護の仕事を身近に感じてもらえるようこれらの取組を充実させるとともに、県のホームページやSNSなどを活用して、積極的に情報発信していきますので、皆さんの御参加を心よりお待ちしております。

答弁（商工労働局長）

「ロボットやAI等に触れる機会の充実」についてお答えします。

御提案いただいたように、子供の頃からロボットやAIなどに楽しみながら触れることは、ものづくりや新しい技術への興味を高め、未来の広島県を支える人材を育てる上で大変重要であると考えています。

このため、小・中学生の皆さんと県内企業をつなぐウェブサイト「ミツカル！ひろしまカンパニー」では、ロボットなどの先端技術を有する企業にも登録していただき、職場見学などにおいて、皆さんが新しい技術を身近に学び、体験できる機会を広げているところです。

また、県と企業や大学が連携し、高校生を対象として実施している「ひろしまAI部」では、企業の現場体験を通じて、実社会におけるデジタル活用の実態を学ぶとともに、企業や情報系大学に通う大学生の伴走支援を受けながら、AIの活用による身近な課題の解決を目指して、探求活動を行っています。

引き続き、広島県のものづくりや新しい技術を学び、体験する機会をさらに増やし、

皆さんの素晴らしい夢が実現できるよう、応援していきます。